

あとがき

鈴木弼美先生の文章を集めて一書にして世に出したい、という希望は以前から強く学園の内外にありました。時報や雑誌などに発表された先生の文章は、コピーして返し読みをしていました。コピー機械がこんなに普及していない頃から、先生は見やすいように、経済寸法であるようにと、工夫した縮刷のコピーをお作りになって、お分け下さいました。先生は、ご自分のことを宣伝なさらず、たまには近くにいる者でも、その頒布にあずかれないこともありました。しかし、その文章は公の意味を持っているものばかりで、先生の信仰による真理の証言であり、社会や教育や人生の中に確かな視点を与えました。卒業生が学園に帰って、校長先生の講話をうかがうと「こういう深いことを、話して居られたのか。」と在学中は気にもとめなかったことに、改めて深く感銘する、という感想は、私のよく聞くところでした。この本は、先生を愛し、神を信ずる心で読めばよく解ります。そののみか、先生の詩も聞こえてくるのです。

この出版を企画してからあまりに長い間、私の手許で手間取ってしまいました。原稿の書き写しや、句読点の整理は今野利介先生やその他多くの方が協力して下さい、その編集及び校正という最も大きな仕事を助川暢先生を中心に学園の先生方が分担して下さいました。日暮勝英先生は、対談を分担し、また出版全般にわたって御助言下さいました。柳沢よしね先生は、対談テープの筆記や、この本の体裁を決める装幀、ページの割り付けなど、もともと出版社の編集部のやる仕事の一切を引き受けて、この本の出版費を最小限にして下さいました。頁の中のカットは、柳沢先生の学園周辺の印象からの創作です。またキリスト教図書出版社からの出版を許し、頒布上の便宜を提供して下さいしたのは、オカノユキオさんです。このように、多くの方々の御協力によってこの書はできました。即ちこれらの人々を動かした神の御恩寵によってでき上がったのであります。

1979年9月

こせき みつる
小関 充

再版に際して

本書が多くの方々のご協力によって世に出てから六年、この間に、本書が出版されるに当たって縁えんの下したの力持ちとして、編集上の繁雑はんざつな仕事しごとの殆ほとんどを受け持ってくださいました柳沢よしね先生が1982年2月5日に天に召されましたことを記して、あらためて柳沢先生のご愛労に感謝を申しあげる次第です。一冊の本にして出したいとは誰もが思うものの、それを実行するとなるとその仕事の大変さから、みな尻込みして手をつけかねておったものを、日暮先生ひぐらしと柳沢先生じゅんりよくがご尽力じんりよくくださって出来あがったのでした。資料を集めてその機を待っておられた小関様のご熱意もあずかって力あったのでした。

このようにして出来あがったものでしたが、素人のかなしさ、かなり多くの誤植ごしょくやミスがありまして、やむを得ず正誤表せいごをもって読者の皆様には各自でご訂正ていせいくださいとお願いせざるを得なかったことは、初版出版にかかわった者として大変残念にも、また申しわけなくも思ったことでした。今度再版を出すにあたりましては、その全てを訂正し、さらに「科学の本質と信仰」のところで偶数ページに入った「註」を見開きの奇数ページに入るように組みかえて読者の便べんを計りました。

最近の我が国の教育界を見ますと、いじめ、暴力行為、登校拒否等にとあらたなうれうべき状況がますます多くなって参りました。そんな中で、独立学園の教育がもっと広く行なわれることを願う声もまた大きくなってきております。近々に、山陰さんいんの地に基督教愛真きりすと あいしん高等学校が、独立学園を先達せんだつとして設立されるとも聞いております。そのようなことを知りますと、鈴木彌美校長すけよしが半世紀にもわたって言い続け、実行してきましたことを、もっともっと多くの方に知っていただきたいと願う気持ちがこころ昂じて参ります。ここに再版されますこの一冊が、神様の御用ごように立ちますようにと祈りつつ世に送り出したいと思えます。

1985年12月
今野 利介こんの としすけ